

業界短信

(26年7月～8月)

三幸金属工業所、6月、月産最高の2.1万ト。鋼板加工レベラー改造などで(鉄鋼新聞、7/30)

株三幸金属工業所(堺市、楠本雄宏社長)は、今年6月の月産量で過去最高の約2万1千トを達成した。これまでの最多月産量は昨年9月の2万ト。ただ当時は外注量が3千トで、昨年後半から生産能力を上回る受注が続いていた。そのため、生産効率・ハイテン対応化を狙いに、約4億5千万円を投じ、各レベラーを改造。現場での生産効率向上の取り組みもあって過去最高の月産量を達成することができた。

糸田鋼材の舞浜支社、事務所改装、業務も効率化(鉄鋼新聞、7/30)

糸田鋼材株(江東区東陽、糸田晋一郎社長)は、舞浜支社・舞浜工場の事務所改装工事が完了し、今秋から新事務所での業務がスタートした。

栃木シャーリング、4KWレーザを更新。8月下旬操業、厚物領域拡大(鉄鋼新聞、7/30)

栃木シャーリング株(真岡市、近藤剛司社長)は、出力4KW発振器を搭載した門型CO2レーザ切断機を1台リプレースする。今回、導入から十数年が経過した4KWレーザを撤去し、最新鋭のレーザに更新。8月下旬から操業を開始する予定。

栃木シャー、労災ゼロの願いを込めて、自作で「ゼロ災の塔」建立(鉄鋼新聞、7/30)

栃木シャーリング株は、安全・安心で無災害職場づくりの願いを込めて、このほど「ゼロ災の塔」を建立した。「ゼロ災の塔」は、現場作業における労災発生ゼロを願い、正面を入れてすぐの緑地帯から工場全体を見守るように建屋を向いて設置してある。すべて社員による手作りで、高さが2m超。板厚は27mm、総重量は1.6ト強。

松田商工、開先加工能力を強化。長尺材、表裏面の同時開先に対応(鉄鋼新聞、7/31)

株松田商工(浦安市、松田学社長)は、長さ8メートルまでの長尺材を上下面同時に開先できる開先専用機を導入し、開先加工能力を強化した。

ダイコースチール、鋼板加工能力を増強(鉄鋼新聞、8/1)

ダイコースチール株(大阪市住之江区、齋藤幸雄社長)は、月産量2500トを目指し、レーザ加工機やロールベンダー増設など生産体制の増強を進めている。

松田商工、レーザ切断機を増設(鉄鋼新聞、8/1)

株松田商工(浦安市、松田学社長)は、本社・第一工場内に出力4kw発振器を搭載した門型CO2レーザ切断機を増設。既存設備と合わせて門型レーザ3基体制とし、レ

業界短信/H26年7月～8月

ーザ加工能力を増強した。

太陽シャーリング、ガス切断、ドリル付に更新。下期の切板需要増取込みへ

(鉄鋼新聞、8/1)

太陽シャーリング㈱(広島市中区、浅利重法社長)は、NCガス・ドリル複合切断機を設置した。先月23日に株主各社と全社員が出席して安全祈願祭を行った。老朽化した加工機を更新し能力を向上、生産性改善、短納期対応を進めるのが狙い。

日酸TANAKA、門型ファイバーレーザ、軟鋼32ミリの厚の切板加工実証。受注件数も全国で漸増。(鉄鋼新聞、8/5)

仙台シャーリング、切板2次加工に進出。穴あけ、開先など顧客サービス強化(鉄鋼新聞、8/7)

仙台シャーリング㈱(仙台市岩沼市、林理明社長)は、今秋にも切板次工程の穴あけ、開先加工分野に進出する。これまでは外注委託していたが、震災復興工事の本格始動で、需要増が見込まれており、切板からの一貫加工体制を整えることで受注間口を広げるとともに、納期対応力を高めるなど地元ファブの要望に応じていく。

リバー Steele、鋼材加工、より高度に。自動車用鋼管など高機能商品を拡大(産業新聞、8/18)

リバー Steele㈱(横浜市磯子区、芝田誠社長)は、高付加価値化を念頭に業務高度化を図る。鋼材加工事業では磯子工場に導入した五面加工機が戦力化、これを受けて大型サイズやより高度な大型機械加工を取り込む。鋼管では自動車関連で、JFE Steelと連携、難加工の高機能商品を拡大するほか、新たな海外展開を志向。建設では神奈川県下の物件を主体にインフラ整備を捉える。

リバー Steele、技能伝承の取り組み強化、「風通しの会」発足(産業新聞、8/18)

リバー Steele㈱は若手従業員に対する技術、技能伝承の取り組みを強める。芝田誠社長と現場社員との間で意見交換を行う『風通しの会』を本年度からスタート。

Steel Deck Deguchi、新工場建設し全面移転。10億円投資。扱い倍増、月1000トへ

(産業新聞、8/18)

Steel Deck Deguchi㈱(名古屋市南区、出口弘親社長)は、愛知県大府市に新工場を建設し、全面移転する。工場建屋面積を既存2工場から倍に拡張し、レーザ2基を新設するなど、厚板切断、普通鋼・特殊鋼販売など総扱い数量を2年後には月間1000トと、現状から倍増させる。6日に着工し、完成は第1工場が来年3月、第2工場が同6月の予定。

村山鋼材、高品位自社商品の「レーザ切断用鋼板」、厚物広幅タイプを追加(鉄鋼新聞、8/19)

村山鋼材㈱(浦安市、村山和雄社長)は、コイルの内部残留応力を開放し、加工時の反りや歪みを抑えた同社オリジナルの高品位カットシート製品「レーザ切断用鋼板」の

広幅対応力を向上。板厚16^{ミリ}で幅2.3^{メートル}までの品質確立にめどをつけた。

門倉剪断、プラズマ切断機更新（産業新聞、8/19）

（株）門倉剪断工業（福岡県鞍手町、門倉洋平社長）は7月下旬、ステンレス加工用のプラズマ切断機を老朽更新した。約20年ぶりの更新。投資額は約4000万円。寸法精度や切断面のきれいさなど、品質が向上。これまで一部受注品を外注していたが、内製化することでコスト削減と短納期化を実現した。

インスマタル、NC加工データ作成「CAD」能力強化、国内外でスタッフ増員（鉄鋼新聞、8/20）

インスマタル（株）（浦安市、福井英人社長）は、NC加工用プログラムデータを作成するCAD能力を強化するとともに、作業を効率化して機能性を高めた。具体的にはCAD作成オペレータを増員。このうち一部要員をネスティング（板取り）作業専任とし、ネスティングに特化する新たな作業場も用意した。

三原商事東濃金属、スプライス製品、年産5万^{トン}体制へ。建築投資増に対応。関東工場の設備増設（鉄鋼新聞、8/25）

（株）三原商事東濃金属（岐阜県可児市、三原吉宗社長）は、東日本エリアの建築投資増に対応する体制整備を関東工場（群馬県太田市）で進めている。15年度末までにスプライス製品の生産高を同工場単体で現行比30%アップの年1万8千^{トン}にまで引き上げ、18年度末までに本社工場と合わせ同5万^{トン}体制を構築する。このほど最新鋭のバンドソーを1基増設し、平鋼母材の切断能力を引き上げた。孔あけ加工は来春をめどに全加工機を24時間稼働させるほか、切断・ショットブラスト加工もシフト数増加で増産体制を敷く。